

# 平成30年度 宮崎県立都城きりしま支援学校小林校学校関係者評価書

4段階評価

4 十分満足できる

3 ほぼ満足できる

2 やや物足りない

1 改善を要する

## 【総評】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
教育活動	1児童生徒の実態に即した教育課程の編成と教育計画 2分掌部や学部間の連携、円滑な校務運営 3生きる力を育ぐむための教材教具の開発や学習環境の整備 4集団生活への参加、友達と協力する態度や能力の育成 5保護者への教育方針や教育活動の伝達 6好ましい行動の仕方を身につけさせる適切な指導 7児童生徒や保護者・地域社会のニーズに応える教育 8児童生徒理解に立った指導	職員の自己評価の平均は2.9、保護者は3.4となった。いずれも微増となつた。項目2に関しては、学部間が離れていることでの連携の困難さもあったが、今後は、TV会議や他学部見学等を活用するなど、研究成果を活かし、連携及び円滑な運営につなげていきたい。項目5に関しては、これまでも学校の教育活動を中心に学級通信や保健便り等でお伝えしてきたが、今後は進路便りなどの発行回数を増やすなど、保護者に分かりやすい内容も含めて改善に努めたい。特に、教育方針については、本校化に当たり新しいものをお示し、周知にも努力していただきたい。	3	3	特にキャリア支援教育及び各種交流活動等に非常に熱心に取り組まれている状況が伺えました。 小中・高等部間の連携に関わる項目は、「2.7」となっていますが、職員の意識の高さと具体的な行動により、評価の維持が図られていると感じました。また、「研究の成果を活かし」という表現からも前向きさが伝わってきました。 本校化に伴う教育方針等について、その内容に期待すると同時に、保護者等への周知をお願いします。
連携・支援	9個別の指導計画、個別の支援計画、移行支援計画を作成し、保護者や関係機関との連携、長期間の見通しをもった支援 10学級通信、連絡帳、懇談などによる保護者への連絡 11共生社会を目指した学校・地域づくりの推進 12障がいや個性に応じた進路・就業支援 13地域センターとしての相談・連携・支援機能の充実	職員の自己評価の平均は3.1、保護者は3.5となった。併設校との連携については、本校の特色でもあることから、マンネリ化を防ぐため、より内容を充実してきた。また、項目12の「児童生徒の障がいの状態や個性に応じた進路・就業支援に努めているか」については、キャリア支援部を中心に、当該児童生徒に応じたきめ細かな実習や関係機関との連携をしっかりと行ってきた。今後は、就労先の障がい理解を十分に図り、就労後に生徒が安心して社会生活が送れるようフォローアップしていただきたい。	3	3	本項目について、職員・保護者評価が高いこと及び上昇率が高いこと並びに職員から数々の前向きな意見が出されているところに、特に素晴らしいを感じました。 今後更に、共生社会を目指した学校地域づくり及び手厚い進路・就業支援について、PRしていただきたいと思いました。特に前者は、障がい児教育におけるモデル的取組だと思います。 学部が離れているというデメリットがあるから連携に工夫がなされ、地元の学校に併設されているというメリットを最大限に活用しているものと思われます。
研修	14研究や研修を通じての専門的指導力の向上 15職員のニーズに応じた研修、教育間の相互支援	職員の自己評価は2.9となった。課題研究のテーマである「日常生活の指導」2年目でまとめであった。課題だった連携面では、他学部見学等、学部における共通理解を図ることもできた。次年度は、新学習指導要領完全実施に向けた研究を進める予定である。	3	3	職員の専門性等の向上に向け、積極的な取組を行っていることが伺えます。特に、日常生活の指導について、家庭と連携し課題解決を図った点は、他項目への波及効果も含め、大変素晴らしい取組だと思います。

生活・安全	16 児童生徒の健康な心身、基本的生活習慣の確立	職員の自己評価の平均は3.1となった。危機管理に関しては、様々な状況を想定した訓練を実施した。昨年度から、防災メールを活用し、災害時の児童生徒保護者引き渡し訓練を実施している。また、医療的ケア対象の児童生徒における緊急時対応シミュレーションも実施しており、今後も更に課題解決に向けて取り組んでいきたい。	3	3	様々な状況を想定した避難訓練を実施するなど、児童生徒自身の安全・安心の意識を高めるため、多岐にわたる取組がなされていることが伺えます。
	17 交通マナー、社会規範意識等の安全指導の徹底	高等部を中心に、決して被害者・加害者にならないための取組として、更なるせいの教育の充実及びスマートフォン使用に関わる注意喚起の徹底並びに保護者との連携強化をお願いします。			
	18 安全面に留意した準備や対応				
	19 緊急時対策の整備と対応の充実				
その他	20 諸会議、校内研修、課題研の効果的実施	職員の自己評価の平均は2.8となった。特に項目25の「施設整備等安全な教育環境」に関しては、2.0と全項目を通じて最も低い評価となった。職員や保護者からの反省にもあるように、施設設備面では、知能併置の特別支援学校であるにもかかわらず、バリアフリー化や保護者送迎のスペースなど、施設設備面での課題は山積している。今後も関係機関と連携しながら改善を進めるなど、よりよい教育環境の整備に努めていきたい。	3	3	アンケート回収率が100%であることが素晴らしいと思いました。
	21 児童生徒や職員の人権保護	見学させていただいて、特に中学部・小学部の車椅子用トイレの改善及び数の確保の必要性を強く感じました。			
	22 会議の精選、時間短縮、事務処理の軽減化	学部間の連携やバリアフリー化の問題等ありますが、他校にはない様々な特徴(生徒間交流、保護者や地域との連携、特色ある教育等)を更に充実していただき、他方面に発信してほしいと思います。			
	23 児童生徒は登校を薬しみにしているか	本校化に向けてますますの発展を期待したいと思います。			
	24 P T A活動の活性化、保護者の積極的参加				
	25 施設・設備等、快適で安全な教育環境				
	26 個人情報の管理、必要な情報の提供				

## 1 本年度の取組について…「コスマススピリッツ」に関する事項

### <自立>「自立に向け主体的に生きる力の育成」

- ・本年度も「日常生活の指導」について課題研究を進めてきた。九特連研究大会宮崎大会での研究発表をはじめ、他学部見学による学部間の一貫した指導体制を確立した。また、職員のニーズに応じた専門性及び専門的指導力の向上にも努めた。
- ・キャリア教育の視点から、中学部の進路体験学習、高等部の産業現場等における実習を通して、卒業後を見据えた指導や支援に努めた。また、児童生徒、保護者対象の就労に向けた進路学習会、福祉サービス事業所説明会を実施し、進路選択や決定につなげた。さらに、教育支援部とキャリア支援部が連携して、教育相談及び進路相談等を実施することができた。

### <協力>「互いに助け合う豊かな心の育成」

- ・防災メールを活用して、災害時の保護者引き渡し訓練や医療的ケア対象児童生徒の緊急時訓練を実施し、危機管理の強化を図った。
- ・東方小学校・中学校、小林高等学校との日常的な交流や居住地校交流を通じて、相手を思いやる豊かな心の育成につながった。
- ・コンプライアンス研修や「ワン・アクション運動」(学校全体が取り組む)「ワン・トライ運動」(職員1人1人が取り組む)に積極的に取り組み、服務規律の遵守と危機管理体制の充実を図った。

### <挑戦>「家庭や地域と連携し、地域に開かれた学校の実現」

- ・心のバリアフリー推進事業でのボッチャの体験学習や障害者スポーツ大会を通じて、児童生徒の目標達成につなげることができた。
- ・西諸地域の小・中学校及び高等学校等の要請相談等に対応し、地域のセンター的機能の充実を図った。

## 2 次年度へ向けて

- 本校化に向けて本校化準備委員会を隨時開催し、本校の特色を活かした教育方針を定め、地域に本校のよさを発信していく。
- これまでの「日常生活の指導」を重点を置いた課題を継続し、障がいの特性に応じた専門性及び専門的指導力の向上を図る。さらに、今後新学習指導要領の完全実施に向けた研究を推進していく。
- 東方小・中学校、小林高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流の活動内容を見直し、交流及び共同学習の充実を図る。
- 災害時緊急時対応訓練及び児童生徒保護者引き渡し訓練をより実際に即して実施することにより、危機管理体制の強化を図る。